

ばあばは、だいじょうぶ

二年一組 中島 歌音

私がこの本をえらんだ理ゆうは、お母さんにすすめられたからです。

その理ゆうは、私にも日本のおばあちゃんがいるのと、お母さんがおじいちゃんおばあちゃんのお世話をしていたからです。

私は、この本を読んでかなしくなりました。この本に出てくるばあばが、色々なことをどんどんわすれてしまうびょう気になってしまったからです。お母さんは、「みんながわすれてしまうわけではないけど。」と言うけど、私のおばあちゃんも私のことをわすれてしまうのかも、と思ったからです。

この本に出てくるつばさくんは、ばあばが少しずつ色々なことをわすれてしまい、おこったり、ばあばのへやに行かなくなったりしちゃうけど、それはきっと、つばさくんがばあばのことを大スキだったからだと思います。私も、おこったり、へやに行かなくなるかも知れないけど、おばあちゃんのことには大スキだからです。だって、少しずつわすれてしまう前までにしてもらった、たくさんのうれしいことや、やさしかったことばをわすれないからです。

もう一つ思ったことは、ばあばはやさしい人だと思いました。それは色々なことをメモしていたからです。きっと、大切な人のことをわすれないように思ったのと、わすれてめいわくをかけたくなかったからだだと思います。

ぜったいにいやだけど、私のおばあちゃんが、ばあばと同じびょう気になったら、たくさんのメモを書いてもらえるように、思い出をいっぱい作りたいです。